

## 文学研究科 指導計画

1. 研究科概要	<p><b>〔修士課程〕日本の文学と伝統文化を専門的に研究</b></p> <p>古代、中古、中世、近世、近代、現代の文学と伝統芸能に関する科目を中心に、専門的な知識と高い研究能力を身に付けます。文芸創作、児童文学、比較文学比較文化、史学古文書研究、書道などの関連科目を幅広く配置し、広い視野を持って自己のテーマの研究に取り組むことができるカリキュラムを用意しました。</p> <p>修士課程においては、幅広い学識を持ち、日本文学や伝統文化の研究に引き続き従事する者、日本文学文化や伝統文化の発展と啓蒙に携わる機関やメディア等で働く者、あるいは中学校、高等学校の教育現場等において、高度な専門性（国語・書道・司書等）を発揮できる教職員となる人材を育成します。</p> <p><b>〔博士後期課程〕日本の文学と伝統文化を世界との関係性において捉えた高度に専門的な研究</b></p> <p>グローバル化が進む現代社会において、日本の文学と文化を学び世界に発信するとともに、地域の特性を考慮した新たな文化振興の創造に寄与する人材の育成が求められています。そのためには、知識やリテラシーの習得にとどまるのではなく、「日本」「日本語」「日本人」をめぐる歴史、言語、文化等の特徴を深く認識し、「世界」との交流の可能性においても考察する必要があります。</p> <p>博士後期課程では、研究者としての高度に専門的な知識と分析力、発信力を有し、日本の文学と文化の専門家として世界の文学と文化との交流を目指すことのできる人材を育成します。</p>												
2. 取得可能学位	修士（文学） 博士（文学）												
3-1：指導計画（修士課程）													
	審査種別： 修士論文												
1 年次	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="260 1310 475 1400">4 月（入学）</td> <td data-bbox="475 1310 1513 1400">入学時の志望に基づき、年次の初めに指導教員（2名）を決定する。原則として文学研究科の教員が主たる指導教員になる。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="260 1400 475 1545">4 月初旬 ～5 月初旬</td> <td data-bbox="475 1400 1513 1545">           ・「指導教員・題目届」に関する相談、提出            学生→指導教員へ提出            指導教員→武蔵野学部事務室         </td> </tr> <tr> <td data-bbox="260 1545 475 1590">5 月～11 月</td> <td data-bbox="475 1545 1513 1590">修士論文の構想発表会及び中間報告会に出席。学内外の学会や研究会に参加。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="260 1590 475 1691">11 月 ～2 月中旬</td> <td data-bbox="475 1590 1513 1691">学術論文の執筆を目指して添削指導を受ける。資料調査、文献講読に取り組む。学会活動等を開始する。修士論文公聴会に参加する。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="260 1691 475 1736">～2 月下旬</td> <td data-bbox="475 1691 1513 1736">紀要等に論文を投稿することを目指す。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="260 1736 475 1841">～3 月下旬</td> <td data-bbox="475 1736 1513 1841">指導教員のもとで個別研究指導</td> </tr> </table>	4 月（入学）	入学時の志望に基づき、年次の初めに指導教員（2名）を決定する。原則として文学研究科の教員が主たる指導教員になる。	4 月初旬 ～5 月初旬	・「指導教員・題目届」に関する相談、提出 学生→指導教員へ提出 指導教員→武蔵野学部事務室	5 月～11 月	修士論文の構想発表会及び中間報告会に出席。学内外の学会や研究会に参加。	11 月 ～2 月中旬	学術論文の執筆を目指して添削指導を受ける。資料調査、文献講読に取り組む。学会活動等を開始する。修士論文公聴会に参加する。	～2 月下旬	紀要等に論文を投稿することを目指す。	～3 月下旬	指導教員のもとで個別研究指導
4 月（入学）	入学時の志望に基づき、年次の初めに指導教員（2名）を決定する。原則として文学研究科の教員が主たる指導教員になる。												
4 月初旬 ～5 月初旬	・「指導教員・題目届」に関する相談、提出 学生→指導教員へ提出 指導教員→武蔵野学部事務室												
5 月～11 月	修士論文の構想発表会及び中間報告会に出席。学内外の学会や研究会に参加。												
11 月 ～2 月中旬	学術論文の執筆を目指して添削指導を受ける。資料調査、文献講読に取り組む。学会活動等を開始する。修士論文公聴会に参加する。												
～2 月下旬	紀要等に論文を投稿することを目指す。												
～3 月下旬	指導教員のもとで個別研究指導												
	<p>所定の期日（5月初旬）までに「指導教員・題目届」を作成し許可を得た上で、主たる指導教員を通じて学部事務課に提出する。</p> <p>1年生は必修科目の他にいくつかの選択科目を履修することになるが、指導教員の授業は必ず履修し、指導教員と密接に連絡をとりながら研究の方針を決定する。</p> <p>研究テーマの変更を検討することも可能であるが、早めに指導教員と相談すること。</p> <p>修士論文の構想発表・中間報告・公聴会に参加し、司会進行などを経験すること。</p>												

	学内外の学会に参加し、学外の大学院生、研究者とも交流の機会をもつこと。	
2年次	4月～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「修士論文演習」による研究指導（通年）</li> <li>・修士論文の執筆・個別指導（通年）</li> </ul>
	4月初旬 ～5月上旬	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「指導教員・題目届」に関する相談、提出 学生→指導教員に提出 指導教員→武蔵野学部事務室に提出</li> <li>・主査及び副査の決定（研究科委員会）</li> </ul>
	5月～11月	修士論文の構想発表会及び中間報告会で発表。 学内外の学会や研究会に出席、発表。紀要等に論文を投稿。
	11月	修士論文の様式と「修士論文審査願」の確認（履修要覧を参照のこと） 題目と主査及び副査の確認（研究科委員会）
	1月上旬	<ul style="list-style-type: none"> <li>・修士論文の提出 学生→武蔵野学部事務室に提出（事前に指導教員の確認と押印が必要）。</li> </ul>
	1月下旬～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・修士論文の審査</li> <li>・最終試験（口頭試問）、修士論文公聴会</li> </ul>
	3月	修了判定（研究科委員会）
	3月（修了式）	学位記交付
		<p>履修要覧をよく確認すること。</p> <p>所定の期日に、改めて「指導教員・題目届」を作成し、指導教員と相談すること。指導教員の確認を得た上で、武蔵野学部事務室に提出する。</p> <p>「修士論文演習」の時間を中心に指導教員の指導を受け、主体的に修士論文の執筆に取り組む。研究成果の報告機会が次のように設定されているので、十分に準備をして対応すること。</p> <p>▽構想発表（5月中旬） ▽中間報告会（9月～11月） ▽修士論文公聴会（1月下旬～2月上旬） ※修士論文を提出した者のみ ▽紀要への投稿（随時）</p> <p>発表の場においては、研究者としての見識に従い、服装や態度、話し方などにも留意すること。</p>
<b>3-2：指導計画（博士後期課程）</b>		
	審査種別：	博士論文
1,2年次	4月（入学）	指導教員の確認（原則として、希望する指導教員には、出願前に連絡を取り、面接していることとする）。以後、研究計画に基づき、指導教員による指導をおこなう。
	4月初旬 ～5月上旬	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「指導教員・研究課題及び研究計画書」の相談、提出 学生→指導教員へ提出 指導教員→武蔵野学部事務室</li> <li>主査及び副査の決定（研究科委員会）</li> </ul>
	9月	中間報告会（原則として2年次に、予備審査として）
	2月下旬	修士論文公聴会に出席。質疑に参加し、修士課程の大学院生を指導する。
	通年	学内外における学会、研究会に積極的に参加し、複数回発表をおこなうこと。 紀要や全国学会誌に投稿し、論文業績を重ねて、3本以上の抜刷を持つこと。
		履修要覧をよく確認すること。

	<p><u>1年次</u></p> <p>年次の初めに指導教員（主査及び副査）を確認、決定する。</p> <p>指導教員と十分に話し合った上で、所定の期日迄に「研究計画書」を作成し、指導教員を通じて学部事務課に提出する。</p> <p>博士論文については、学位規則（昭和二十八年文部省令第九号）により「公表」が義務付けられている。研究者として自立できることを示す機会となるので、論文作成に到る長期的な計画を綿密かつ具体的に記載する必要がある。また、該当する学会、研究会に加入し、積極的に学会活動をおこなうことが望ましい。</p> <p><u>2年次</u></p> <p>1年次に提出した「研究計画書」と照合して、計画どおりに研究が進んでいるか、その進捗状況を随時、指導教員に報告し、指導を受ける。紀要に論文を掲載し、また複数の全国学会誌に論文を投稿していることが望ましい。次年度、博士論文を提出する予定の者は中間報告会をおこない、予備審査を受ける必要がある。</p>	
3年次	4月初旬 ～5月上旬	博士論文提出予定に関する相談、届出。 詳細は履修要覧を参照し、指導教員と相談すること。
	8月	・博士論文の題目と様式、「博士論文審査願」の確認（研究科委員会）
	10月	・博士論文の提出 ・博士論文審査委員会の設置（研究科委員会）
	12月	博士論文の最終試験（口頭試問、公開）
	～2月下旬	博士論文公聴会
	3月	博士論文審査委員会による判定会議、研究科委員会への報告。
	3月	学位授与式における学位記交付
	<p><u>3年次</u></p> <p>2年次までの予備審査の結果、研究成果（学会発表、紀要論文、全国学会誌への投稿、調査報告など）等を確認し、指導教員と協議して、必要に応じて「研究計画書」を修正する。6月下旬を目途に論文概要を提出し、研究科委員会の学位論文提出資格審査を受ける。指摘された問題点や助言を踏まえて、夏休み明けには論文草稿を指導教員に提出する。指導教員と協議しながら加筆訂正等をおこない、博士論文の完成を目指す。所定の期日（10月）に博士論文を提出する。博士論文審査委員会を設置し、構成員を決定する。外部の審査員の選定等を行う。口頭試問（12月）を公開で行い、可否を決定。合格した場合には、博士論文公聴会（2月）に臨む。あわせて、論文の公開方法（著書としての刊行等）を協議する。</p>	